

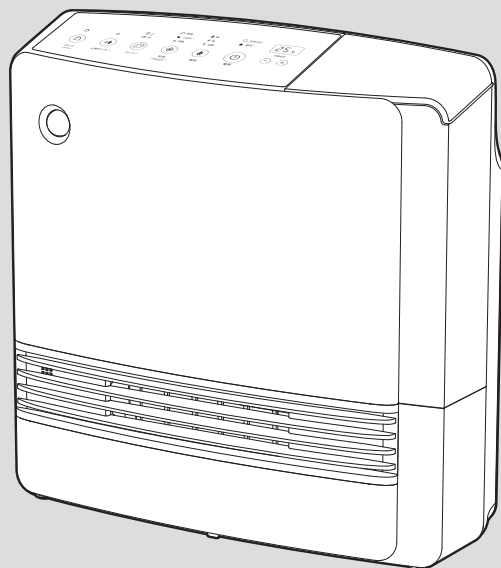
THREEUP

人感/室温センサー付 大風量*加湿ワイドセラミックヒーター モイストエアヒート

CH-T2273

※「大風量」は当社従来品との比較です。

取扱説明書



本製品は日本国内専用です。

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にご使用ください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに大切に保管してご利用ください。

目次

はじめに

安全上のご注意	1～3
各部のなまえ	4～5
パッケージ内容	5
別売品	5
仕様	5

ご使用前に

知っておいていただきたいこと	6
設置について	6
水タンクに水を入れる	7
リモコンについて	8

ご使用方法

運転する	9
停止する	10
暖房運転の運転モードを切り替える	10～12
加湿運転の運転モードを切り替える	13～15
オフタイマーを設定する	15～16
オンタイマーを設定する	17～18
オフタイマーとオンタイマーを同時に設定する	18
人感センサーモード(自動運転)	19
チャイルドロックを設定する	20
水タンクの水がなくなると	20

点検・修理

お手入れと保管方法	21～25
コンセントの点検	25
故障かな?と思ったら	26
保証・サービス	裏表紙

はじめに



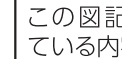
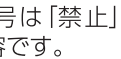


安全上のご注意

火災、感電、ケガなどの事故を未然に防ぐため、ご使用前によくお読みのうえ、正しく使用してください。
また、各部に破損や亀裂、変形などの損傷がないことをよく点検してください。

■ 誤った取り扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。

 警告	誤った取り扱いをしたときに、死亡や重傷に結びつく可能性があるもの。	 注意	誤った取り扱いをしたときに、傷害または家屋・家財などの損害に結びつくもの。
--	-----------------------------------	---	---------------------------------------

■ 図記号の意味は次のとおりです。

   	この図記号は「禁止」されている内容です。	 	この図記号は必ずお守りいただく「指示」内容です。
--	----------------------	---	--------------------------

警告



分解禁止

分解や修理、改造をしないでください。
火災、感電、ケガの原因になります。
修理技術者以外の人は、分解や修理をしないでください。修理が必要な場合は、スリーアップカスタマーサポートまでお問い合わせください。



プラグを抜く

長時間ご使用にならない時は、電源プラグをコンセントから抜いてください。
絶縁劣化による火災、感電の原因になります。



水ぬれ禁止

浴室などの湿気の多い場所、水のかかる場所では使用しないでください。
本体やリモコンを水につけたり、水をかけたりして丸洗いはしないでください。
漏電、感電、火災、故障の原因になります。

お子様だけで使わせしないでください。
感電やケガ、事故の原因になります。

屋外や直射日光の当たる場所で使用しないでください。
絶縁劣化による感電、漏電、火災、故障の原因になります。

高温になる場所や湿気やホコリの多い場所に放置、保管しないでください。
動作異常のおそれがあり発煙、発火の原因になります。



禁止

火気に近づけたり、強い衝撃を与えたりしないでください。
本体の変形によるショートや発火の原因になります。

引火性のもの（殺虫剤、ヘアスプレー、ガンリン、ベンジン、シンナー）の近くで使用しないでください。
また、本体に向けて吹きかけしないでください。
爆発や火災の原因になります。

濡れた手で電源プラグの抜き差しを行わないでください。
感電のおそれがあります。

本体のすき間にピンや針金などの異物を入れないでください。

感電や故障の原因になります。

延長コードやテーブルタップ、ソケットなどは使用しないでください。

コンセントや電源プラグ、電源コードが異常発熱し、発火するおそれがあります。

電源をとるコンセントのすぐ下に本体を設置しないでください。

暖房運転のご使用时、過熱により電源コードや電源プラグが損傷し、感電、火災、事故の原因になります。

風を長時間、直接身体に当て続けしないでください。

暖房運転のご使用时は、長時間、身体の同じ部位を温め続けしないでください。

健康を害する原因になります。

また、温風を当て続けると、やけどや低温やけどの原因になります。
特に皮膚の弱い方、乳幼児、温度調節を自分でできない方には周りの方が注意してください。

ストーブやガスコンロなどの燃焼器具に向けて送風しないでください。

火災ややけどの原因になります。

乳幼児の手の届くところにボタン電池を置かないでください。

ボタン電池を誤飲する原因になります。

万一、誤飲した場合はすぐに医師にご相談ください。

ボタン電池を火の中に入れて、水に濡らしたりしないでください。

また、分解や加熱をしないでください。

破裂や発熱の原因になります。

温風吹出口や吸気口をふさいだり、本体を覆ったりしないでください。

衣類やカーテンなどで温風吹出口や吸気口がふさがれたり、本体が覆われたりすると、過熱による本体の変形、発火の原因になります。

警告

電源は必ず家庭用100V電源(容量15A-1500W)を単独で使用してください。

- 異なる電圧での使用は発熱により故障、火災の原因になります。
- タコ足配線はブレーカーが落ちたり、火災の原因になります。

電源プラグにホコリが付いている場合は、きれいに拭き取ってください。

ホコリがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因になります。

電源コードや電源プラグを取り扱うときは、次のことを守ってください。

- 電源コードや電源プラグを乱暴に扱ったり、重いものをのせたり、機器に挟み込んだり、損傷したものは使用しないでください。
- 濡れた手で電源プラグの抜き差しをしないでください。
- 電源プラグはコンセントに確実に差し込んでください。
- コンセントから抜くときは、コードを引っ張らず、電源プラグを持って抜いてください。
- 使用時以外は電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 電源コードを束ねたまま使用しないでください。
- 電源コードや電源プラグが破損した場合は、スリーアップカスタマーサポートまでご相談ください。

ボタン電池を保管、廃棄する際は、電極(+/-)にセロハンテープなど絶縁性のテープを貼ってください。

- 複数のボタン電池が重なり合うと、一方のボタン電池が導線として働き、電極がショートして破裂や発熱を引き起こし、火災につながるおそれがあります。
- 廃棄する際は、お住いの市町村の指示に従って廃棄してください。
- ヘアピンやコインなどの導電物と一緒に保管したり、持ち運んだりしないでください。

長時間リモコンを使用しないときは、ボタン電池をリモコンから取り出してください。

- 消耗したボタン電池を入れたままにしておくと、液漏れや腐食により、リモコンが故障する原因になります。
- 液漏れを起こした場合は、液に触れないように注意し、すぐに電池を取り出してください。
- 漏れた液が体に付着した場合はよく洗い流してください。万一、液が目に入った場合はすぐに多量の水で洗い流し、医師にご相談ください。

周囲に十分な空間を確保して設置してください。設置距離について、P.6「設置について」を必ずご確認ください。

使用しない場合は、安全な場所に保管してください。

落下、衝撃、水濡れをする場所は避け、お子様の手の届かない場所に保管してください。

包装用のポリ袋はお子様の手の届かない場所に保管してください。

誤ってかぶると窒息による死亡の原因になります。

異常時や故障時は、直ちに使用を中止して、電源プラグをコンセントから抜いてください。

《異常/故障例》

- 電源を入れても運転しないときがある。
- 電源コード、電源プラグが触ることができないほど熱い。
- 焦げ臭いにおいがする。
- 運転中に異音がする。

その他異常と思われるときは、使用せずにスリーアップカスタマーサポートまでお問い合わせください。



必ず守る



必ず守る



接触禁止

注意

本機は家庭用です。業務用として使用しないでください。

故障の原因になります。

テレビ、パソコン、オーディオ機器などの近くに設置しないでください。

テレビ、パソコン、オーディオ機器などに雑音が入る原因になります。

製品の上に物を置いたり、踏み台にしたり、腰掛けたり、寄りかかったりしないでください。転倒、破損によるケガや事故の原因になります。

吸気フィルターを取り外した状態で運転しないでください。

本体内部にホコリがたまりモーターが過熱するなど、漏電や事故、故障の原因になります。



禁止



禁止

⚠ 注意

高所や足元が不安定な場所では使用しないでください。

水平で安定している場所に設置してください。斜面など不安定な場所に設置すると、転倒により水が漏れて周囲を濡らす原因になります。また、高所から落下すると、ケガや破損の原因になります。

薬品などの周囲では使用しないでください。本体のプラスチック部品が劣化し、破損するおそれがあります。

犬や猫などのペット用には使わないでください。ペットが本体や電源コードを傷つけ、漏電や故障の原因になります。

衣類の真下に設置しないでください。衣類が落下すると、吸い込みによる故障の原因となります。

水タンクと水トレイの水が凍結するような場所では使用しないでください。故障の原因になります。

湿度の高い場所（75%以上）では使用しないでください。家具や壁を湿らせ、雑菌やカビが繁殖し異臭や故障の原因になります。

運転中は移動させたり、傾けたりしないでください。水漏れや故障の原因になります。運転を停止して電源プラグをコンセントから抜き、水タンクと水トレイの水を捨ててから移動してください。

常温の水道水以外は使用しないでください。

- 浄水器の水、アルカリイオン水、ミネラルウォーター、井戸水などはカビや雑菌が繁殖しやすくなります。
- 40℃以上のお湯や化学薬品、汚れた水、芳香剤、洗剤、アロマオイルを入れた水などは、製品の変形、故障の原因になります。

お手入れには台所用中性洗剤とクエン酸以外は使用しないでください。塩素系/アルカリ系の洗剤や、シンナー、ベンジン、アルコールなどは使用しないでください。

吸気フィルターを取り外した状態で運転しないでください。本体内部にホコリがたまりモーターが過熱するなど、漏電や事故、故障の原因になります。



禁止

ボタン電池を素手で取り扱わないでください。

- 電極 (+/-) を素手で同時に触ると、一気に放電して、消耗を早める原因になります。
- 汗や手油などが付着すると、接触不良の原因になります。

本機の性能を維持するため、定期的にお手入れをしてください。

- 「お手入れと保管方法」に従ってお手入れをしてください。汚れがひどくなると、発熱や故障の原因になります。
- 人感センサーが汚れていると、作動しなかったり誤作動したりする場合があります。

人感センサー周囲の環境に注意して設置してください。

設置環境について、P.19「人感センサーモード（自動運転）」をご確認ください。

水タンクと水トレイの水は毎日新しい水道水と入れ替え、常に清潔に保つよう定期的にお手入れしてください。

水を入れ替えずに長時間使用すると、雑菌やカビが繁殖して異臭や健康を害する原因になります。

長時間使用しない場合や、お手入れ、保管の際は、水タンクと水トレイに残った水を捨ててください。

- 水タンクと水トレイに水が入ったままでお手入れをすると、水が漏れて周囲を濡らす原因になります。
- 水タンクと水トレイに水が入ったままで保管すると、雑菌やカビが繁殖し異臭の原因になります。

ボタン電池は電極 (+/-) の向きに十分注意して装着してください。

正常に動作しない原因や、リモコンの故障の原因になります。



必ず守る



禁止



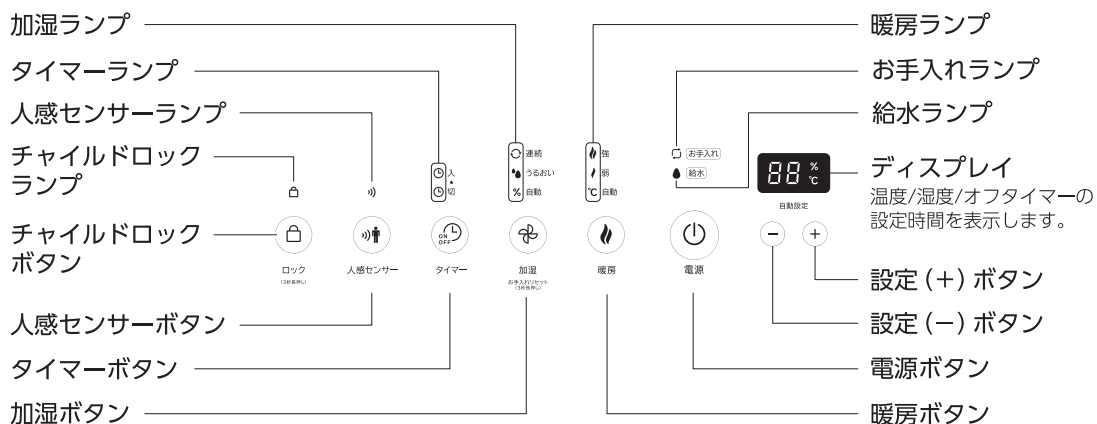
接触禁止

温風吹出口や吸気口の内部に指を入れないでください。ケガの原因になります。

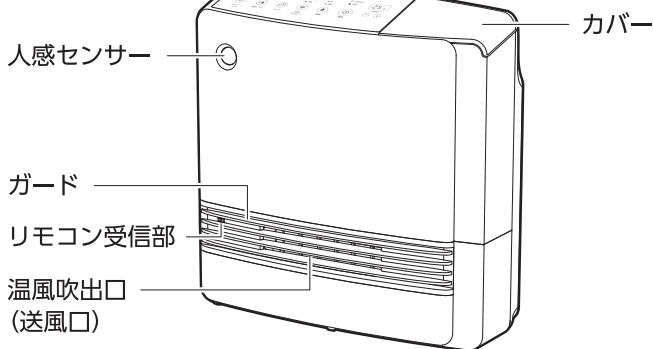
各部のなまえ

■ 本体

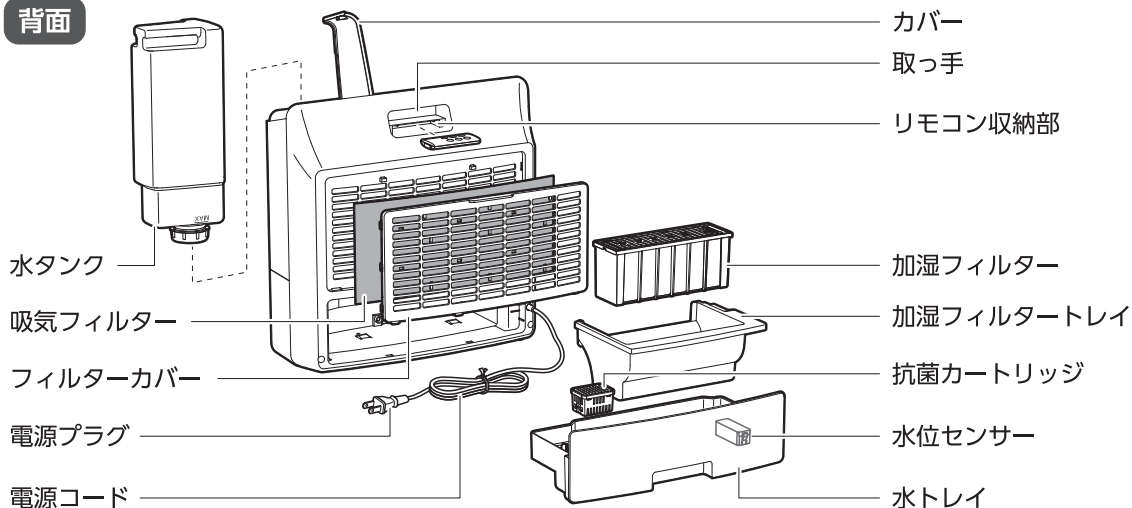
操作部



正面



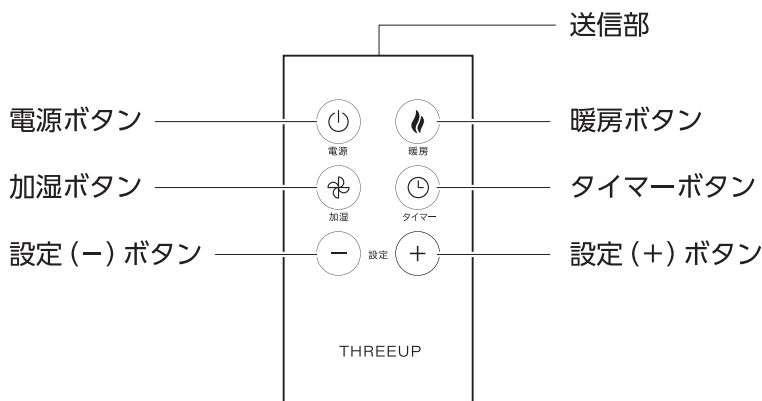
背面



はじめに

■ 付属品

- リモコン



パッケージ内容

梱包には万全を期しておりますが、万一不足品、破損品などがありましたら、スリーアップカスタマーサポートまでご連絡ください。

部品名	個数	部品名	個数
本体	1	取扱説明書（保証書付き）本書	1
リモコン（CR2032電池内蔵）	1	—	—

別売品

下記の別売品または付属品をお買い求めの際は、スリーアップカスタマーサポートまでご連絡ください。

部品名	個数	商品単価（税込）
加湿フィルター	1	1,980 円
抗菌カートリッジ	1	1,320 円

※ 上記の費用以外に、送料と代引き手数料がかかります。

仕様

本体サイズ	幅43×奥行18×高さ43cm	本体重量	約5.2 kg
材質	ABS、PP	電源	AC100V 50/60Hz
消費電力	暖房（強/1200W、弱/600W）、加湿（35W）	タンク容量	約2.5 L
運転モード	暖房（自動 ^{*1} /2段階切替（弱/強））、加湿（連続/自動 ^{*2} /うるおい） 人感センサー（自動運転） ※1 温度設定：18～30℃（1℃単位） ※2 湿度設定：40～75%（5%単位）	加湿量	700 mL/h（暖房/強運転時）、 300 mL/h（暖房/弱運転時）、 160 mL/h（加湿運転のみ）
加湿連続運転時間	約3時間（暖房「強」）～約15時間（加湿運転のみ）	オン・オフタイマー設定	1～9時間（1時間単位）
自動オフタイマー	10時間（暖房運転時のみ）	加湿方式	ハイブリッド（気化式+PTCヒーター）
適用床面積（目安）	19畳（洋室、プレハブ）、 12畳（和室、木造）	機能	オン・オフタイマー同時設定、 チャイルドロック、お手入れランプ
安全装置	温度ヒューズ、温度センサー、 転倒時自動オフスイッチ	1時間あたりの電気代	約32.4円（強/1200W連続運転時）、 約0.95円（35W加湿運転時）
コード長	約1.5 m	—	—

※ 商品は改良の為、仕様・外観など予告なく変更する場合があります。

※ 加湿量や適用床面積（目安）は、使用環境により異なります。

ご使用の前に

知っておいていただきたいこと

■ 加湿方式について

- 気化式 …………… 加湿フィルターに水を含ませ、風を当てて加湿します。
- 気化式+ヒーター …… 加湿フィルターに水を含ませ、ヒーターで暖めた風を当てて加湿します。

メモ 気化式は水を含んだ加湿フィルターに風を当てて湿った空気を出す方式のため、スチーム式や超音波式のように湯気やミストは見えません。

■ センサーについて

周囲温度と周囲湿度は、本体に内蔵されているセンサーが感知する温度と湿度になります。

■ 水漏れについて


床に本体や水タンク、水トレイを落下させた場合に亀裂が入り、水漏れを起こす場合がありますので、取り扱いにはご注意ください。

■ 抗菌カートリッジについて

抗菌カートリッジの内部には、雑菌の繁殖を防ぐためのセラミックボールが入っています。約6か月に1個を目安に、新しい抗菌カートリッジと交換してください。週に2回以上すすぎ洗いをしてお手入れを行ってください。


設置について

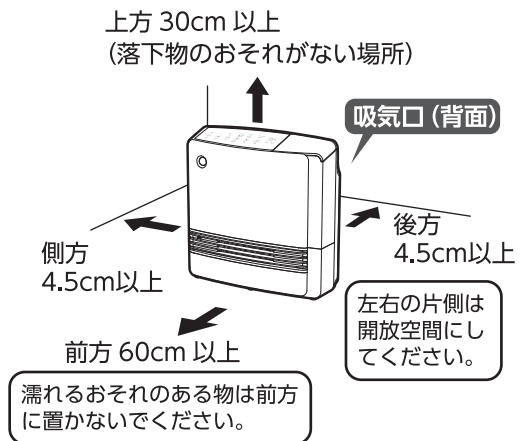
■ 設置条件

**警告**

右図の設置距離を必ずお守りください。

- 左右側のどちらか一方は、壁や障害物で囲まれていない開放空間にしてください。
- カーテン、ふとん、新聞など燃えやすいものの近くで使用しないでください。
- 本体背面の吸気口が壁やカーテンなどでふさがれないよう十分な距離をとり、水平な場所に設置してください。

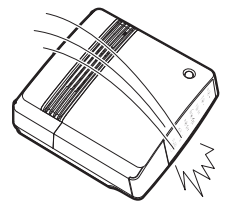
**必ず守る**



■ 転倒時自動オフスイッチ

本体が転倒したり、傾いたりしたときに自動で運転を停止します。

- 転倒時自動オフスイッチが作動して運転が一旦停止した場合、同時に電源も切れます。引き続きご使用になる場合は、水平な床面にもう一度設置して『電源』ボタンを押してください。
- 本体を動かしたときにカラカラと音がすることがありますが、これは転倒時自動オフスイッチの動作音です。故障ではありません。



■ 安全装置

温度が上昇しすぎると本体内部の温度センサーが感知し、自動的に運転が停止します。少し時間をおいて温度が下がれば、『電源』ボタンを押すことで運転を再開できます。

異常な温度上昇を感知した場合は、温度ヒューズが作動し、回路を遮断する場合があります。その場合は温度が下がっても運転は再開できません。

ご使用の前に

水タンクに水を入れる

加湿運転をご使用になる場合は、運転前に水タンクに水を入れてください。

⚠ 注意



必ず守る

- 必ず水道水を入れてください。
一般に水道水は塩素殺菌処理されており、雑菌が繁殖しにくいからです。
- 水タンクと水トレイの水は毎日新しい水道水と入れ換え、常に清潔に保ち、定期的にお手入れしてください。
お手入れをせずに使い続けると、カビや雑菌が繁殖し、悪臭の原因になります。
体質によっては、過敏に反応し、健康を害する原因になります。

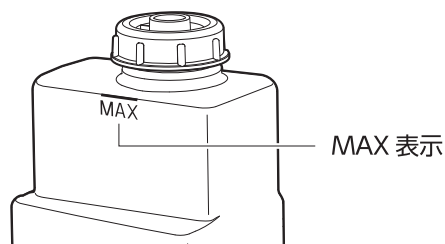


禁止

- 次のような水は水タンクや水トレイに入れしないでください。
- ・浄水器の水、アルカリイオン水、ミネラルウォーター、井戸水などはカビや雑菌が繁殖しやすくなります。
 - ・40℃以上のお湯や化学薬品、汚れた水、芳香剤、洗剤、アロマオイル、エッセンシャルオイルを入れた水などは、製品の変形、故障の原因になります。

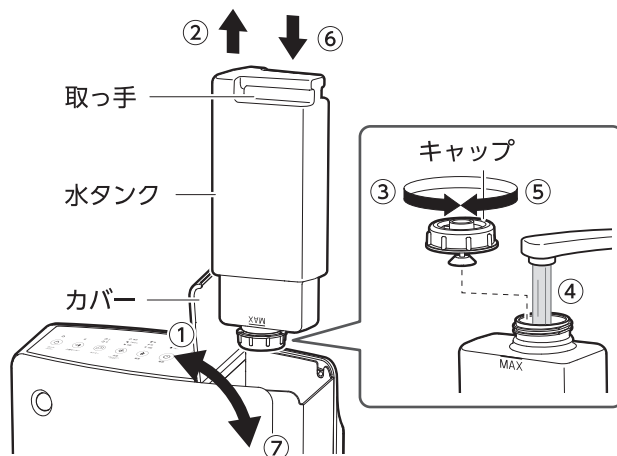
■ 給水量について

水タンクのMAX刻印を超えて水を入れないでください。



■ 水タンクの水の入れかた

- ① カバーを開きます。
- ② 本体から水タンクを取り外します。
水タンクの取っ手を持って取り外してください。
- ③ 水タンクからキャップを取り外します。
- ④ 水タンクに常温の水道水を入れます。
洗面所や浴室などで給水してください。
- ⑤ 水タンクにキャップを取り付けます。
キャップはしっかりと締め付けてください。
- ⑥ 水タンクを本体に取り付けます。
- ⑦ カバーを閉めます。



水タンクや水トレイに水が入っている状態で、本体を移動したり揺らしたりしないでください。
水トレイの水がこぼれて、水漏れの原因になります。

リモコンについて

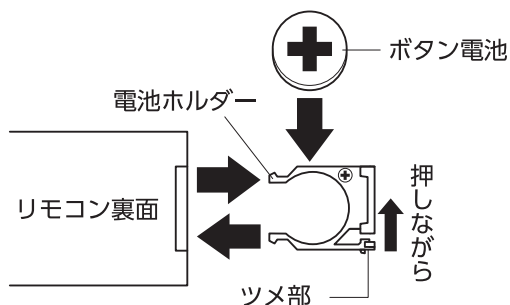
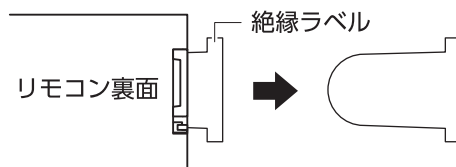
工場出荷の段階でボタン電池が装着されています。
ご使用前に絶縁ラベルを引き抜いてください。

※製品に付属しているボタン電池はテスト用のため、
早く消耗する場合があります。

■ ボタン電池の交換方法

使用するボタン電池は「CR2032」です。

- ① リモコン裏面の電池ホルダーのツメ部を、矢印方向に押しながら引き抜きます。
- ② 新しいボタン電池の【+】を上にして装着します。
- ③ 電池ホルダーを「カチッ」と音がするまではめ込みます。

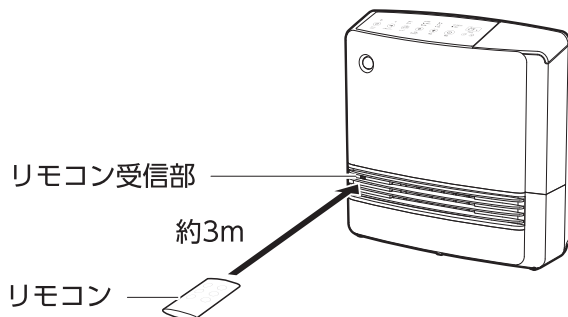


■ 操作範囲

リモコンの送信部を本体のリモコン受信部に向けて使用してください。操作距離は直線で約3mです。

テレビやオーディオのリモコン等を使用した際、まれに本体が反応して動作することがあります。これは本製品と同じ周波数を利用している機器で起きる現象です。

そのような場合は本体に影響しない場所でご使用ください。



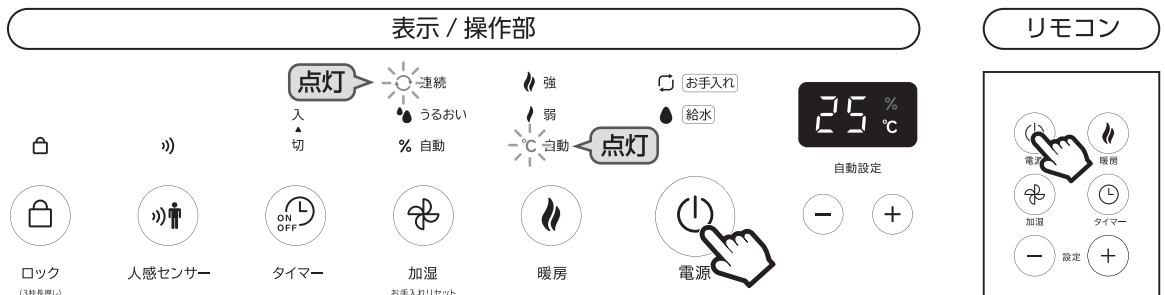
ご使用方法

運転する

- 水タンクと水トレイに水が入っている場合は、暖房運転を開始すると自動で加湿運転も開始します。暖房運転のみでご使用になりたい場合は、水タンクと水トレイの水を捨ててください。
※加湿運転のみでもご使用いただけます。
- 初めてご使用の際は、使い始めに少し塗料または油分の臭いがすることがありますが、故障や異常ではありません。ご使用にともない消えてなくなります。

■ 運転のはじめかた

- 電源プラグをコンセントに差し込みます。
“ピッピッ”と電子音が鳴り、待機状態となります。
- 本体またはリモコンの『電源』ボタンを押すと運転を開始します。
初めてご使用になるときや電源プラグを差し直したときは、次のモードで運転を開始します。
 - 水タンクと水トレイに水が入っている場合：暖房「自動」運転＋加湿「連続」運転
 - 水タンクと水トレイに水が入っていない場合：暖房「自動」運転※本体またはリモコンのボタンを押したときは、“ピッ”と電子音が鳴ります。



『暖房』ランプ「自動」と『加湿』ランプ「連続」が点滅している場合は、運転モードを切り替えるか、設定温度を変更してください。

運転モードの切り替えや設定温度の変更のしかたは、各運転説明をご確認ください。

減灯機能について ディスプレイ表示と各ランプは操作しない状態が1分続くと減灯します。

メモ 水タンクを本体に取り付けたあと、水トレイに水が流れるまで約25秒かかります。

■ 運転中の表示について

● 暖房運転時のディスプレイ表示

周囲温度を表示 — **25 °C** — 「C」が点灯

● 加湿運転時のディスプレイ表示

周囲湿度を表示 — **60 %** — 「%」が点灯

● エラー時のディスプレイ表示

周囲湿度が
30%以下の場合

Lo %
°C

周囲湿度が
81%以上の場合

Hi %
°C

運転中に水トレイが
外れている場合

E3 %
°C

- オフタイマー設定中は、ディスプレイに周囲温度、周囲湿度、タイマー時間を表示します。詳細は各運転説明をご確認ください。
- ランプの点灯/点滅と消灯は、設定や状態にあわせて切り替わります。詳細は各運転説明をご確認ください。

停止する

■ 運転の止めかた

運転中に本体またはリモコンの『電源』ボタンを押すと、“ピーッ”と電子音が鳴ってディスプレイの表示と全てのランプが消灯して運転を停止します。

暖房運転と暖房+加湿運転の停止後は、内部冷却のため約20秒間送風運転を行います。

メモリー機能

- 一度運転を停止させて再びご使用になるときは、停止時の設定で運転を再開します。(オフタイマー設定は除く)
- 電源プラグを差し直した場合はリセットされます。

自動オフタイマー機能

電源の消し忘れを防止するため、暖房運転時は最後の操作から10時間後に自動停止します。(人感センサー設定中を除く。)

⚠ 注意



必ず守る

- 長時間ご使用にならない場合は、電源プラグをコンセントから抜いて、水タンクと水トレイの水を捨ててください。
- 電源プラグを抜く場合は、必ず先に『電源』ボタンを押し、《送風運転の停止》を確認してから電源プラグを抜いてください。運転中に電源プラグを抜くと、故障の原因になります。

暖房運転の運転モードを切り替える

■ 暖房運転の運転モード一覧

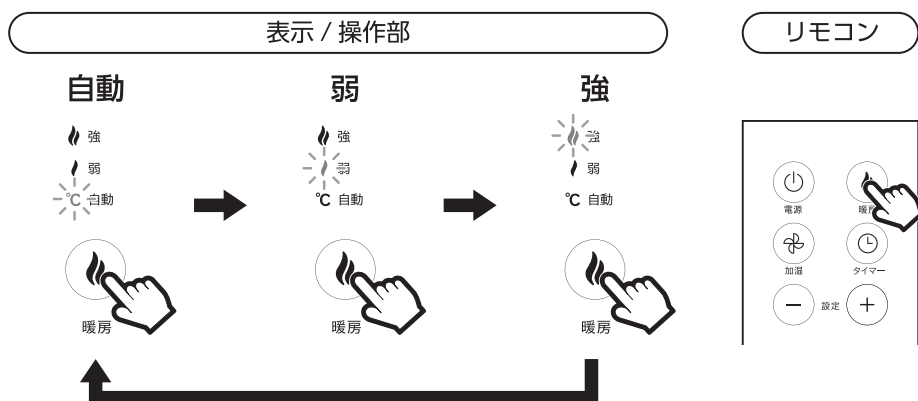
- 自動…設定温度と周囲温度の差にあわせて自動で運転の停止と再開、ヒーター「弱」とヒーター「強」を切り替えます。
温度は18～30℃の範囲で1℃単位に設定できます。
- 弱……ヒーター「弱」+風量「弱」で連続運転します。
- 強……ヒーター「強」+風量「強」で連続運転します。
- OFF…水タンクと水トレイに水が入っているときのみヒーターを停止し、加湿「連続」で運転します。

■ 運転モードの切り替えかたと切り替わり順

運転中に本体またはリモコンの『暖房』ボタンを押します。

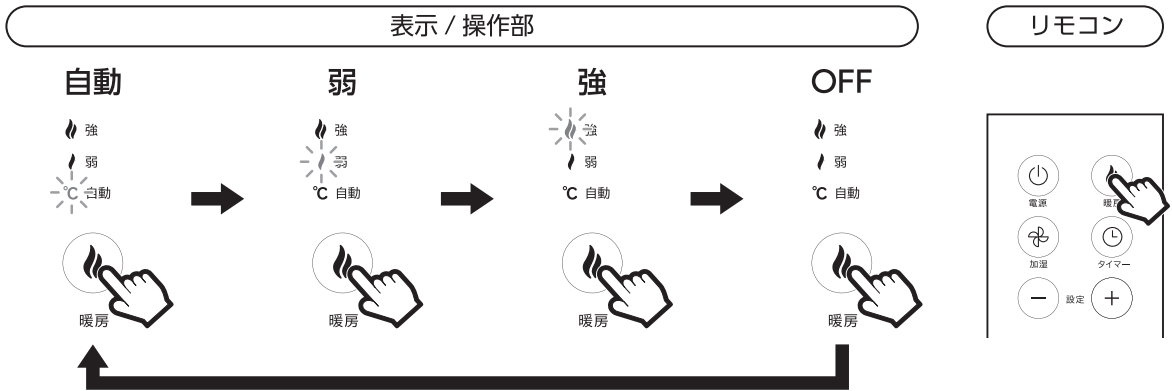
『暖房』ボタンを押すたびに運転モードが切り替わり、設定にあわせて点灯する『暖房』ランプも切り替わります。

◎暖房運転のみご使用の場合(水タンクと水トレイに水が入っていないとき)



ご使用方法

◎暖房運転と加湿「連続」運転をご使用の場合（水タンクと水トレイに水が入っているとき）



メモ 暖房運転を停止しても、加湿「連続」運転は停止しません。

■ 自動モードの動作内容

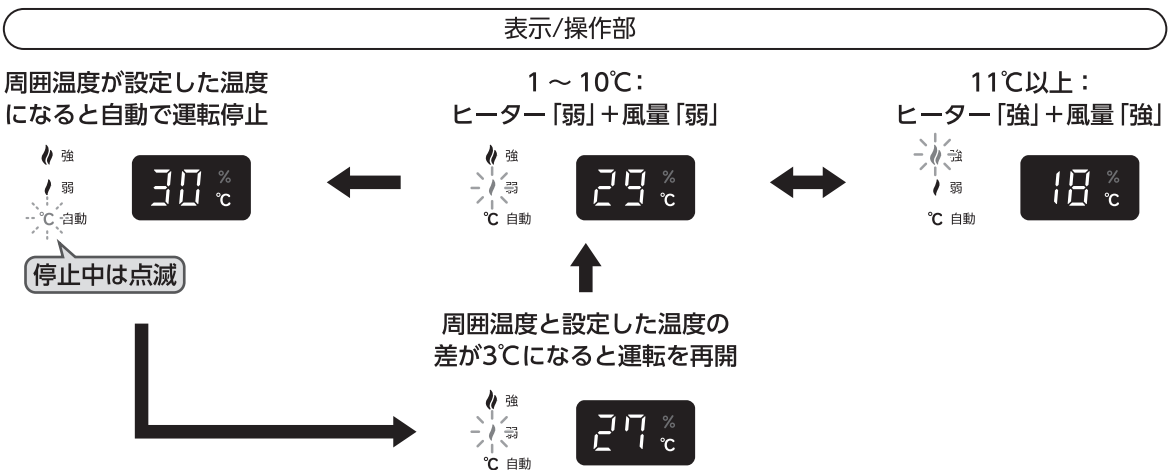
設定温度と周囲温度の差にあわせて、次のように自動で動作が切り替わります。

設定温度と周囲温度の差	動作
設定温度 ≤ 周囲温度	停止
1 ~ 10℃	弱
11℃以上	強

運転停止後から運転再開までの動作について

周囲温度が設定した温度になり自動で運転停止したあとは、周囲温度と設定した温度の差が3℃以上になると運転を再開します。

◎(例) 温度を30℃に設定した場合



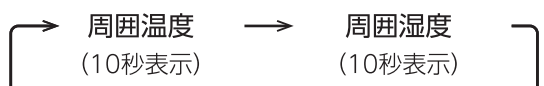
■ 暖房運転中のディスプレイ表示

◎暖房運転のみご使用の場合

周囲温度を表示します。

◎暖房運転と加湿運転をご使用の場合

周囲温度と周囲湿度を繰り返し表示します。



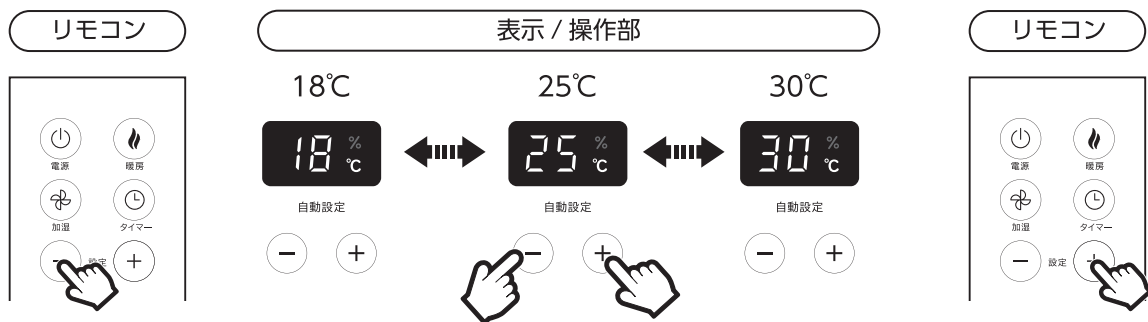
■ 自動モードの温度設定のしかた

- ① 運転中に本体またはリモコンの『暖房』ボタンを押して、暖房「自動」に設定します。
ディスプレイが設定表示に切り替わり点滅します。
初めてご使用になるときや電源プラグを差し直したときは、温度設定は25℃となります。

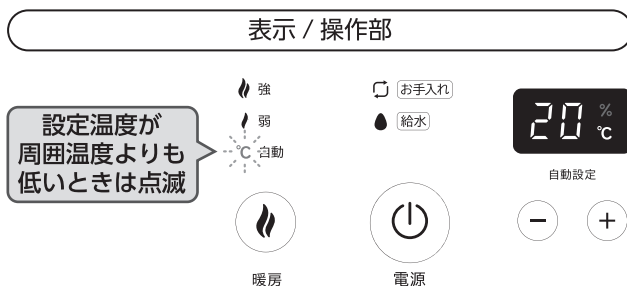


- ② ディスプレイの点滅中に、本体またはリモコンの『設定 (+)』ボタンと『設定 (-)』ボタンを押して温度を設定します。
『設定 (+)』ボタンを押すたびに1℃単位で温度が高くなり、『設定 (-)』ボタンを押すたびに1℃単位で温度が低くなります。
・ディスプレイの点滅時間は約5秒間です。
点滅中に他のボタンを押した場合は、表示していた温度で設定されます。

メモ 『設定 (+)』ボタンまたは『設定 (-)』ボタンを押し続けると、1℃単位で設定温度が切り替わります。



- ・設定温度が周囲温度よりも低いときは、『暖房』ランプ「自動」が点滅し、運転が開始されません。
設定温度が周囲温度よりも高くなるように変更してください。



- ③ 温度を設定したあと、ディスプレイの表示が点滅から点灯に切り替わると、設定完了となります。

ご使用方法

加湿運転の運転モードを切り替える

■ 加湿運転の運転モード一覧

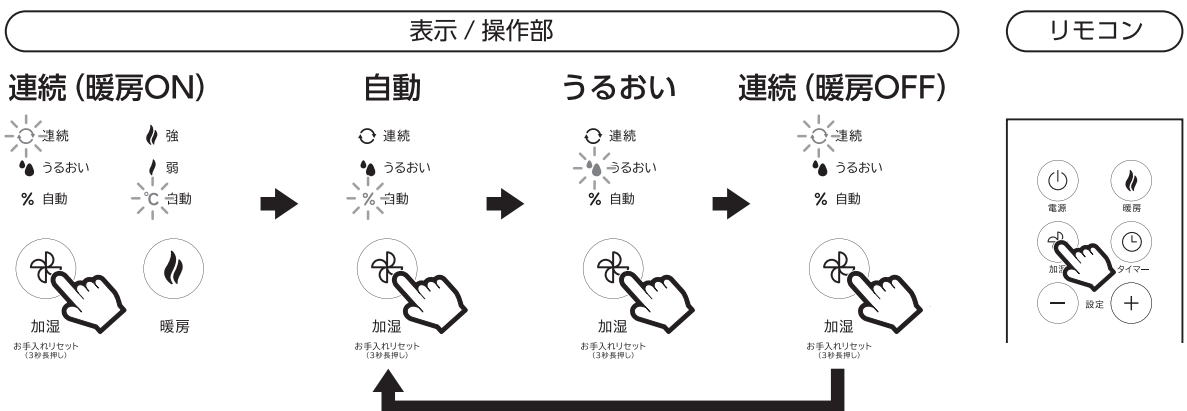
- 連続……連続して加湿運転します。
- 自動……40～75% (5%単位) の範囲で、設定湿度を変更できます。
- うるおい…周囲温度にあわせて、自動で湿度が設定されます。

※「自動」と「うるおい」は、設定湿度と周囲湿度の差にあわせて、自動で運転の停止と再開を切り替えます。

■ 運転モードの切り替えかたと切り替わり順

運転中に本体またはリモコンの『加湿』ボタンを押します。

『加湿』ボタンを押すたびに運転モードが切り替わり、設定にあわせて点灯する『加湿』ランプも切り替わります。



メモ 暖房ボタンを1回押すと加湿「連続」(暖房ON)に戻ります。

■ 自動モードの動作内容

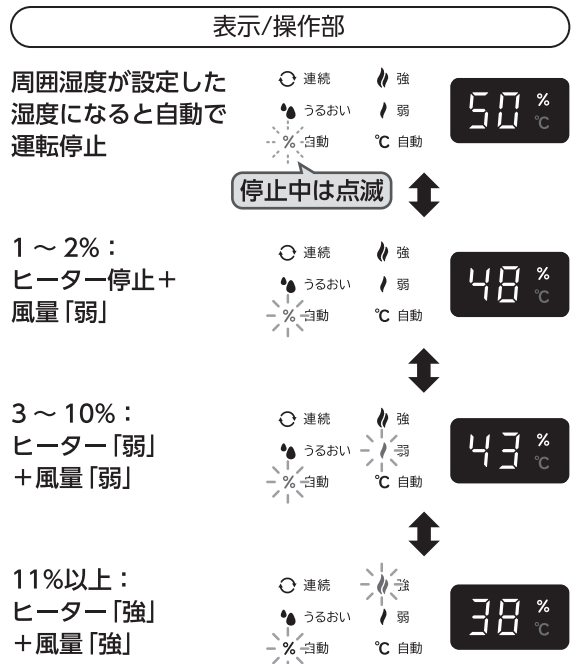
40～75% (5%単位) の範囲で、設定湿度を変更できます。

※設定湿度と周囲湿度の差にあわせて、自動で運転の停止と再開を切り替えます。

設定湿度と周囲湿度の差	ヒーター	送風
設定湿度 ≤ 周囲湿度	停止	停止
1～2%	停止	弱
3～10%	弱	弱
11%以上	強	強

- 自動モード運転時の『加湿』ランプについて
運転中は「自動」が点灯し、運転停止時は点滅します。
- 自動モード運転時の『暖房』ランプについて
 - ・ヒーター停止時は消灯します。
 - ・ヒーター「弱」運転時は、『暖房』ランプ「弱」が点灯します。
 - ・ヒーター「強」運転時は、『暖房』ランプ「強」が点灯します。

◎ (例) 湿度を50%に設定した場合



■ 自動モードの湿度設定のしかた

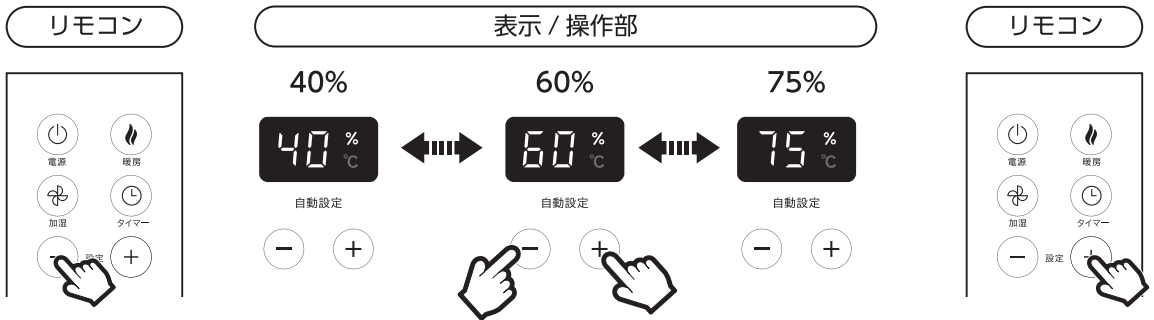
- ① 運転中に本体またはリモコンの『加湿』ボタンを押して、加湿「自動」に設定します。ディスプレイが設定表示に切り替わり点滅します。

初めてご使用になるときや電源プラグを差し直したときは、湿度設定は60%となります。

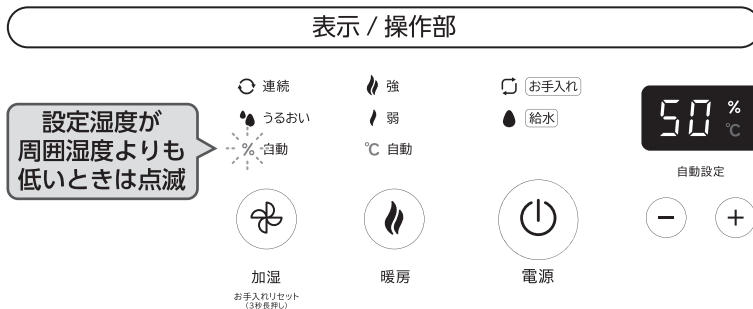


- ② ディスプレイの点滅中に、本体またはリモコンの『設定 (+)』ボタンと『設定 (-)』ボタンを押して湿度を設定します。
『設定 (+)』ボタンを押すたびに5%単位で湿度が高くなり、『設定 (-)』ボタンを押すたびに5%単位で湿度が低くなります。

- ディスプレイの点滅時間は約5秒間です。
点滅中に他のボタンを押した場合は、表示していた湿度で設定されます。



- 設定湿度が周囲湿度よりも低いときは、『加湿』ランプ「自動」が点滅し、運転が開始されません。設定湿度が周囲湿度よりも高くなるように変更してください。



- ③ 湿度を設定したあと、ディスプレイの表示が点滅から点灯に切り替わると、設定完了となります。

自動モード運転中に設定湿度を確認したいときは、『加湿』ボタンを押してください。設定湿度を約5秒間点滅表示します。

ご使用方法

■ うるおいモードの動作内容

周囲温度にあわせて、自動で湿度が設定されます。

※設定湿度と周囲湿度の差にあわせて、自動で運転の停止と再開を切り替えます。

● 周囲温度と自動停止する設定湿度の関係

周囲温度	設定される湿度
19℃以下	75%以上
20～22℃	70%以上
23～24℃	65%以上
25℃以上	60%以上

● 設定湿度と周囲湿度の差による動作の切り替わりについて

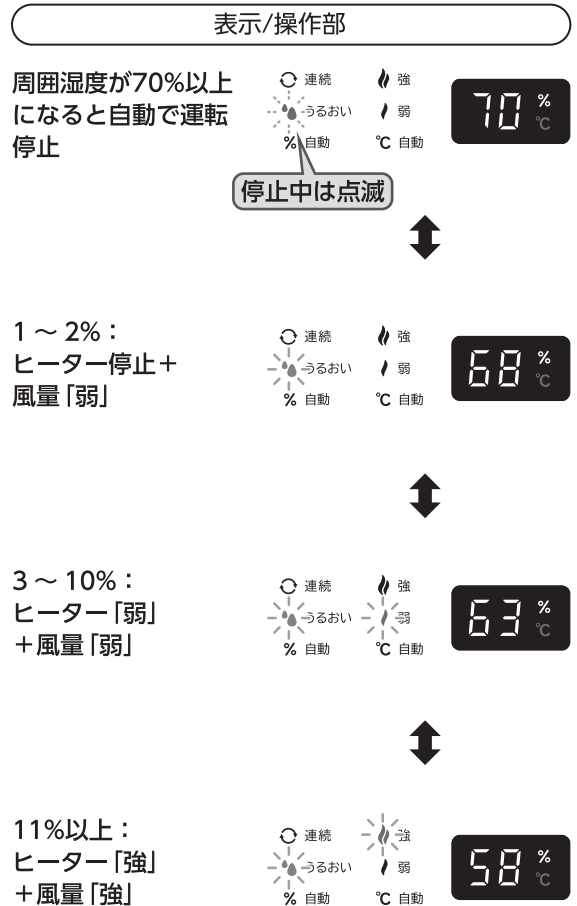
設定湿度と周囲湿度の差	ヒーター	送風
設定湿度 ≤ 周囲湿度	停止	停止
1～2%	停止	弱
3～10%	弱	弱
11%以上	強	強

● うるおいモード運転時の『加湿』ランプについて
運転中は「うるおい」が点灯し、運転停止時は点滅します。

● うるおいモード運転時の『暖房』ランプについて

- ヒーター停止時は消灯します。
- ヒーター「弱」運転時は、『暖房』ランプ「弱」が点灯します。
- ヒーター「強」運転時は、『暖房』ランプ「強」が点灯します。

◎ (例) 製品の検知温度が20～22℃の場合



オフタイマーを設定する

1～9時間の範囲で1時間ごとに設定でき、設定時間が経過すると自動で運転を停止します。

■ オフタイマーの設定のしかた

① 運転中に本体またはリモコンの『タイマー』ボタンを押します。
『タイマー』ランプ「切」が点灯して、ディスプレイが設定表示に切り替わり点滅します。



- ② ディスプレイの点滅中に、本体またはリモコンの『設定 (+)』ボタンと『設定 (-)』ボタンを押して時間を設定します。

『設定 (+)』ボタンを押すたびに1時間単位で時間が増え、『設定 (-)』ボタンを押すたびに1時間単位で時間が減ります。

ディスプレイの点滅時間は約5秒間です。

点滅中に他のボタンを押した場合は、表示していた時間で設定されます。



メモ

- ・『設定 (+)』ボタンを押し続けると、1H→2H→3H…→9H→-H→1H…の順に切り替わります。
- ・『設定 (-)』ボタンを押し続けると、9H→8H→7H…→1H→-H→9H…の順に切り替わります。

- ③ 時間を設定したあと、ディスプレイの表示が点滅から点灯に切り替わると、設定完了となります。
オフタイマーの設定中は『タイマー』ランプ「切」が点灯します。

■ オフタイマーの解除のしかた

『タイマー』ボタンを押して設定表示にし、ディスプレイの表示が「-H」になるまで『設定 (+)』ボタンまたは『設定 (-)』ボタンを繰り返し押してください。

ディスプレイの表示が点滅から点灯に切り替わると、『タイマー』ランプ「切」が消灯します。

メモ 『タイマー』ボタンの長押しでも解除できます。

■ オフタイマー設定中のディスプレイ表示

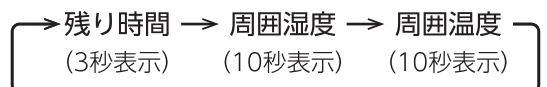
◎暖房運転をご使用の場合

オフタイマーの残り時間と周囲温度を繰り返し表示します。



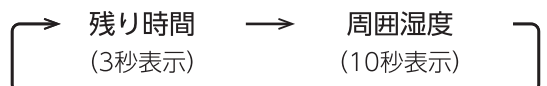
◎暖房運転と加湿運転をご使用の場合

オフタイマーの残り時間→周囲湿度→周囲温度の順で繰り返し表示します。



◎加湿運転をご使用の場合

オフタイマーの残り時間と周囲湿度を繰り返し表示します。



メモ 1時間経過するごとに残り時間が切り替わって表示します。

オンタイマーを設定する

1～9時間の範囲で1時間ごとに設定でき、設定時間が経過すると自動で運転を開始します。

■ オンタイマーの設定のしかた

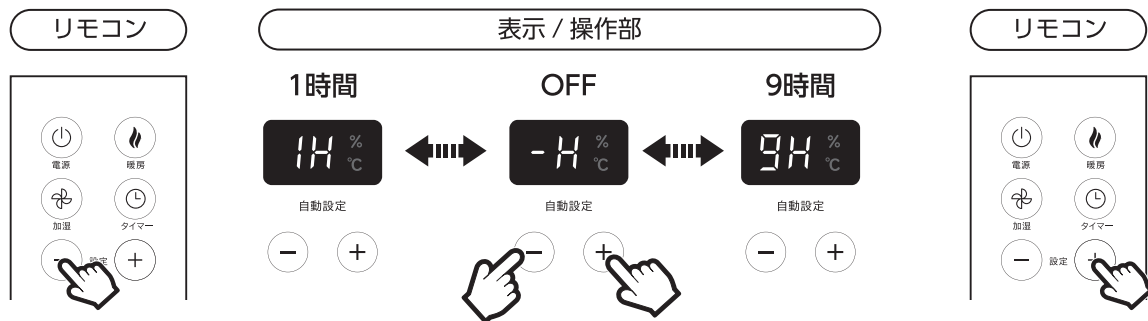
- ① 待機中に本体またはリモコンの『タイマー』ボタンを押します。
『タイマー』ランプ「入」が点灯して、ディスプレイが設定表示に切り替わり点滅します。



- ② ディスプレイの点滅中に、本体またはリモコンの『設定 (+)』ボタンと『設定 (-)』ボタンを押して時間を設定します。
『設定 (+)』ボタンを押すたびに1時間単位で時間が増え、『設定 (-)』ボタンを押すたびに1時間単位で時間が減ります。

ディスプレイの点滅時間は約5秒間です。

点滅中に他のボタンを押した場合は、表示していた時間で設定されます。



メモ

- 『設定 (+)』ボタンを押し続けると、1H→2H→3H…→9H→-H→1H…の順に切り替わります。
- 『設定 (-)』ボタンを押し続けると、9H→8H→7H…→1H→-H→9H…の順に切り替わります。

- ③ 時間を設定したあと、ディスプレイの表示が点滅から点灯に切り替わると、設定完了となります。
オンタイマーの設定中は『タイマー』ランプ「入」と、ディスプレイの残り時間表示が点灯します。

- ④ 設定した時間が経過すると、記憶された運転モードで運転を開始します。

メモ

オンタイマー設定完了後も、『タイマー』ボタンを押したあとに『暖房』ボタンや『加湿』ボタン、『人感センサー』ボタンを押すことで、運転開始時の運転モードを再設定できます。

■ オンタイマーの解除のしかた

『タイマー』ボタンを押して設定表示にし、ディスプレイの表示が「-H」になるまで『設定(+)]ボタンまたは『設定(-)]ボタンを繰り返し押すか、『電源』ボタンを押してください。

オンタイマーの設定完了後に『電源』ボタンを押すと、オンタイマーの設定はリセットされ、運転を開始します。

メモ 『タイマー』ボタンの長押しでも解除できます。

オフタイマーとオンタイマーを同時に設定する

■ オフタイマーとオンタイマーの同時設定のしかた

- ① 運転中にオフタイマーを設定します。
- ② オフタイマーの設定後に『タイマー』ボタンを2回押してオンタイマーを設定します。
※オフタイマー設定時間が点滅中に『タイマー』ボタンを1回押すと、オンタイマーを設定できます。

■ オフタイマーとオンタイマーの解除のしかた

◎オフタイマーを解除する場合

P.16「オフタイマーの解除のしかた」に従って、オフタイマーを解除してください。
オンタイマーの解除前にオフタイマーを解除すると、オンタイマーも解除されます。

◎オンタイマーを解除する場合

P.18「オンタイマーの解除のしかた」に従って、オンタイマーを解除してください。

◎オフタイマーとオンタイマーを解除する場合

『タイマー』ボタンを長押しすると、オフタイマーとオンタイマーを同時に解除できます。

ご使用方法

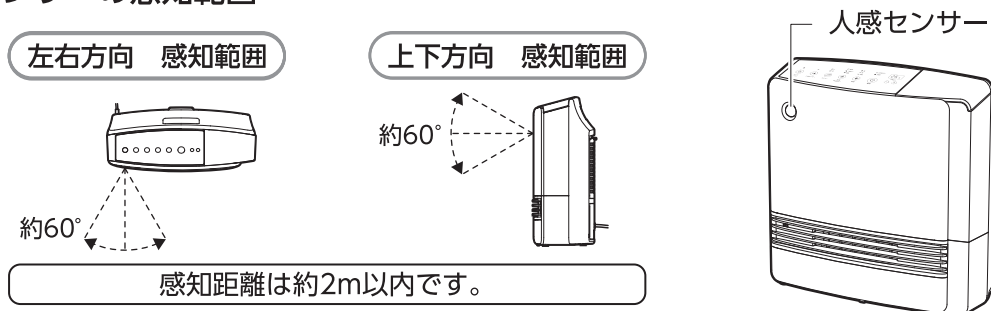
人感センサーモード(自動運転)

■ 人感センサーモードについて

暖房運転中に人感センサーで人の動きを感知して、運転の停止と再開を切り替えます。

メモ 加湿「連続」(暖房OFF) 運転時は、人感センサーモードはご使用になれません。

■ 人感センサーの感知範囲



■ 人感センサーの設置環境

- 人感センサーの特性上、次のような場所では作動しなかったり、誤作動したりする場合があります。
 - ・カーテンの近くや風などで揺れるもの(植物など)の近く
 - ・温度の高い場所や急激な温度変化のある場所
 - ・人感センサーや感知範囲に直射日光が当たる場所
 - ・湿度の高い場所や加湿器の近く
 - ・エアコンなどの送風を受ける場所
- 人がいても、ゆっくりとした動きや速い動き、小さい動き、じっとしているときなどには人感センサーは感知しません。
- ペットや熱を出す器具(他の暖房器具・お掃除ロボットなど)にも反応する場合があります。

■ 人感センサーモードを設定する

暖房運転中に本体の『人感センサー』ボタンを押します。

『人感センサー』ボタンを押すたびに人感センサーモードの「ON」/「OFF」が切り替わり、設定にあわせて『人感センサー』ランプが点灯または消灯します。

メモ 人感センサーが連続で約2分間、人を感知しないと『人感センサー』ランプが点滅して待機状態となり、送風運転(約20秒間)したあとに運転を停止します。
待機中に人感センサーが人を感知すると“ピッ”と電子音が鳴り、運転を再開します。



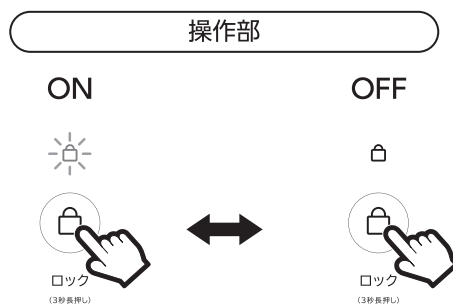
チャイルドロックを設定する

■ チャイルドロックの設定のしかた

本体の『チャイルドロック』ボタンを約3秒間長押しします。
“ピッ”と電子音が鳴って『チャイルドロック』ランプが点灯し、チャイルドロックが設定され、ボタン操作ができなくなります。
運転中にチャイルドロックを設定した場合、『電源』ボタンを押すと運転停止しますが、もう一度『電源』ボタンを押しても運転を再開しません。
運転を再開する場合は、チャイルドロックの解除後に『電源』ボタンを押してください。

■ チャイルドロックの解除のしかた

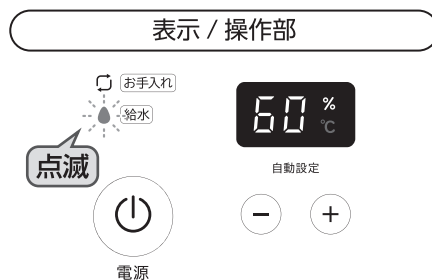
『チャイルドロック』ボタンを約3秒間長押しします。
“ピッ”と電子音が鳴って『チャイルドロック』ランプが消灯し、チャイルドロックが解除されます。



水タンクの水がなくなると

■ 給水のお知らせ

- 加湿運転中に水タンクの水がなくなり、水トレイ内の水が少なくなると“ピーッピーッピーッ”と電子音が鳴って、『給水』ランプが点滅し、運転を停止します。
引き続きご使用になる場合は、水タンクに給水してください。
- 『給水』ランプの点滅後10分以内に給水すると、『給水』ランプが消灯し、停止前の運転状態で再開します。
- 運転停止から10分以上経過すると、『給水』ランプのみ点滅し、給水するまで点滅し続けます。
給水すると『給水』ランプの点滅は消灯します。
運転を再開する場合は、給水後に『電源』ボタンを押してください。



メモ

- 暖房運転とあわせて加湿「連続」運転をしているときに水がなくなった場合は、電子音は鳴りません。『給水』ランプは消灯したままで加湿「連続」運転が停止しますが、暖房運転は継続します。
- 水がない状態で『加湿』ボタンを押すと“ピーッピーッピーッ”と電子音が鳴って、『給水』ランプが3回点滅します。

お手入れと保管方法

警告



必ず守る

- お手入れや点検、保管の際は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。感電やケガの原因になります。
- お手入れや点検、保管の際は、本体が十分に冷めてから行ってください。やけどの原因になります。

注意



必ず守る

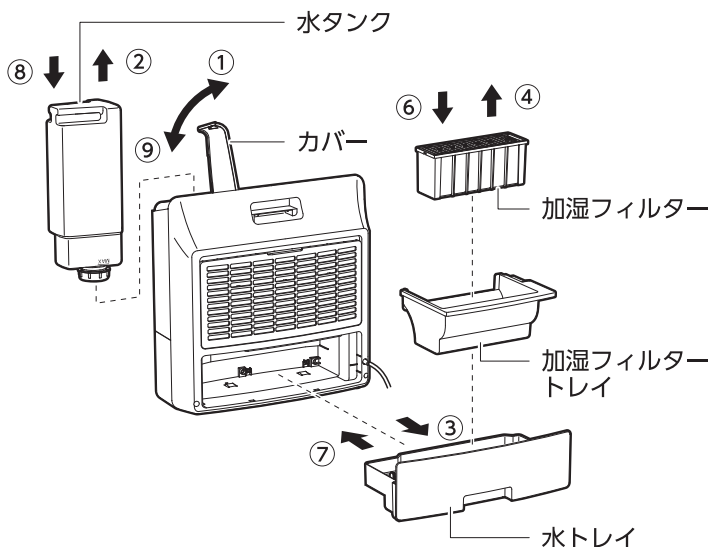
長期間使用しない場合や、お手入れ、保管の際は、水タンクと水トレイに残った水を捨ててください。

- 水タンクと水トレイに水が入ったままお手入れをすると、水が漏れて周囲を濡らす原因になります。
- 水タンクと水トレイに水が入ったままや、加湿フィルターが濡れたままで保管すると、雑菌やカビが繁殖し異臭の原因になります。

各部のお手入れは週に2回以上行ってください。

■ 水の捨てかた

- ① カバーを開きます。
- ② 本体から水タンクを取り外します。水タンクの取っ手を持って取り外してください。
- ③ 本体から水トレイを取り外します。
- ④ 水トレイから加湿フィルタートレイと加湿フィルターを取り外します。
- ⑤ 水タンクと水トレイに残った水を捨てます。
- ⑥ 水トレイに加湿フィルタートレイと加湿フィルターを取り付けます。
- ⑦ 本体に水トレイを取り付けます。
- ⑧ 本体に水タンクを取り付けます。
- ⑨ カバーを閉めます。



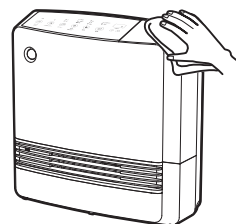
■ 本体のお手入れ

柔らかい布で乾拭きしてお手入れしてください。

汚れが落ちにくいときは、薄めた台所用中性洗剤に浸した柔らかい布で汚れを拭いたあと、洗剤が残らないように固くしぼった柔らかい布で拭き取ってください。

仕上げに柔らかい布で乾拭きしてください。

- お手入れには塩素系・アルカリ系の洗剤や、シンナー、ベンジン、アルコールなどは使用しないでください。
- お手入れのあとは水分をよく拭き取り、陰干しをして十分に乾かしてください。



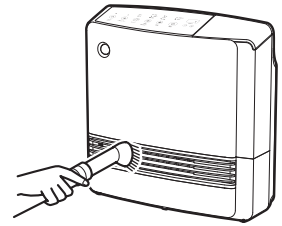
■ 温風吹出口のお手入れ

ガードのすき間にたまったホコリは、掃除機で吸い取ってください。

温風吹出口周囲の変色について

ご使用方法、ご使用状況によっては温風吹出口の周囲が変色する場合がありますが、性能や安全性に問題はありません。また変色や変形の原因になりますので、次のようなご使用方法はお避けください。

- 温風吹出口、吸気口、吸気フィルターにホコリが詰まった状態での使用。
- 温風吹出口、吸気口付近に障害物がある状態での使用。
- 机の下など狭く囲まれた場所での使用。



■ 水タンクのお手入れ

- 水タンクの外側は、本体と同様のお手入れをしてください。
- 水タンクの内側は少量の水を入れて軽く振り洗いして水を捨てます。
汚れが落ちにくいときは、薄めた台所用中性洗剤を使用してください。
洗剤が残らないよう、しっかりすすいでください。

振り洗い中は
確実に締め付ける



■ 水トレイ、加湿フィルタートレイ、加湿フィルター、抗菌カートリッジのお手入れ

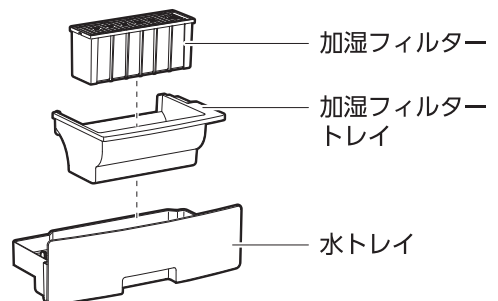
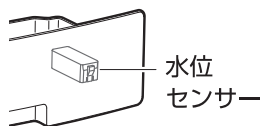
水トレイと加湿フィルタートレイ、加湿フィルターは、ご使用とともに水道水に含まれる不純物（カルシウムなど）が気化せずに残り、白色や赤茶色の固まりが付着したり、加湿フィルターが黄色っぽく変色したりすることがありますが、異常や故障ではありません。雑菌やカビが繁殖し、臭いの発生や加湿量の低下の原因となるため、必ず定期的にお手入れを行ってください。

● お手入れの前に

本体から水タンクを取り外したあと、水トレイを取り外します。
水トレイから加湿フィルタートレイと加湿フィルターを取り外します。
運転後の加湿フィルターは水を含んでいます。浴室など濡れてもよい場所で取り外してください。

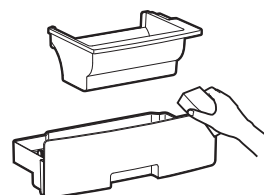
注意

水トレイから水位センサーを取り外さないでください。



● 水トレイ、加湿フィルタートレイのお手入れ

水トレイ、加湿フィルタートレイは、スポンジなどで洗います。
汚れが落ちにくいときは、薄めた台所用中性洗剤を使用してください。
洗剤が残らないよう、しっかりすすいでください。



●加湿フィルターのお手入れ

加湿フィルターは水洗いします。

- 注意** 加湿フィルターを押さえたり、引っ張ったりして無理な力を加えないでください。変形や破損の原因になります。

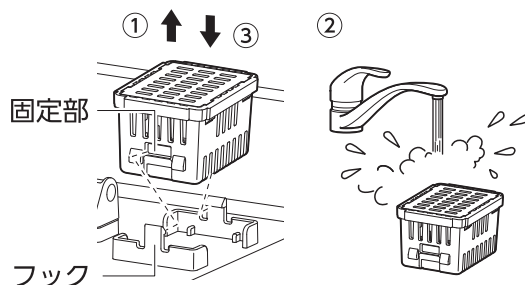


- 1か月に一度または『お手入れ』ランプ点灯時は、クエン酸を使った浸け置きを推奨します。詳細は「臭いや水あかが気になるときは」をご確認ください。
- 浸け置きをしても臭いや水あかが落ちない場合は、加湿フィルターの交換時期です。※交換時期は、水質や使用頻度で変わります。

●抗菌カートリッジのお手入れと取り付け/取り外しかた

- ① 抗菌カートリッジを持ち上げて、水トレイから取り外します。
- ② 抗菌カートリッジを水洗いします。
- ③ 抗菌カートリッジの固定部を、水トレイのフックに引っ掛けます。

- メモ** 抗菌カートリッジは約6か月を目安に交換してください。



■ フィルターカバー、吸気フィルター、吸気口のお手入れ

- ① フィルターカバーの取っ手に指先を掛けて持ち上げ、手前に引いて取り外します。
- ② フィルターカバーから吸気フィルターを取り外します。
- ③ 各部のお手入れをします。

フィルターカバーのお手入れ

フィルターカバーは、本体と同様のお手入れをしてください。

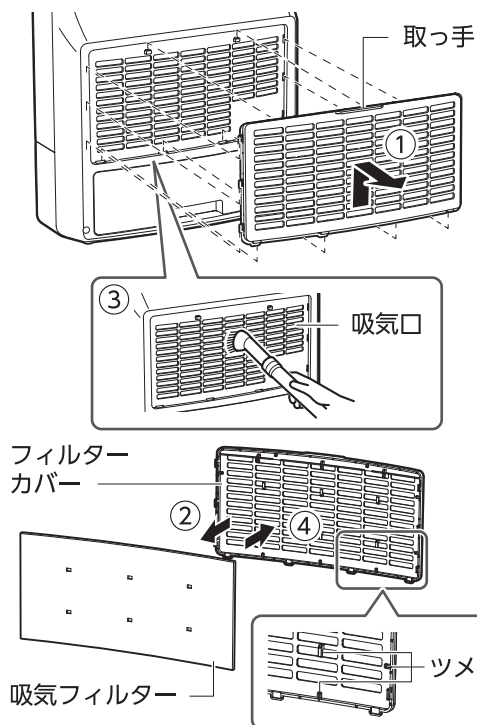
吸気フィルターのお手入れ

吸気フィルターは水洗いしてください。お手入れのあとは陰干しをして十分に乾かしてください。

吸気口のお手入れ

吸気口にたまったホコリは掃除機で吸い取ってください。

- ④ 吸気フィルターをフィルターカバーに取り付けます。吸気フィルターの穴(6か所)と、吸気フィルターの外周をフィルターカバーのツメ(計16か所)に引っ掛けてください。



⑤ フィルターカバーを本体に取り付けます。

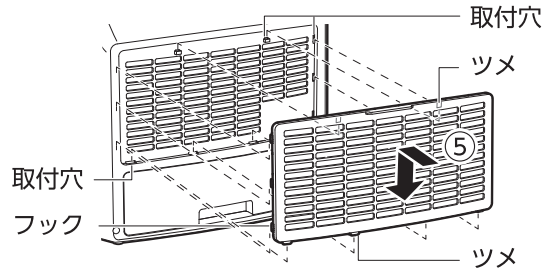
フィルターカバーの取っ手を上に向け、上側のツメ (2か所) と下側のツメ (4か所)、左右のフック (6か所) を本体の取付穴に引っ掛けてください。

※フィルターカバーの周囲が浮かないよう、確実に取り付けてください。

注意

吸気フィルターを取り外した状態で運転しないでください。

本体内部にホコリがたまり、モーターの過熱や故障の原因になります。



『お手入れ』ランプが点滅したときは

使用時間が112時間 (1日8時間×2週間を想定) を経過すると、『お手入れ』ランプが点滅して、加湿フィルター等の洗浄時期をお知らせします。

「臭いや水あかが気になるときは」に従って、水トレイと加湿フィルターの洗浄をしてください。

『お手入れ』ランプが点滅していなくても、次のような場合は「臭いや水あかが気になるときは」に従って洗浄をしてください。

- 水タンクの水の減りが遅くなったと感じたとき
- 吹き出す風の臭いが気になったとき
- 乾拭きでは水あかが落ちないとき

● 使用時間のリセットのしかた

本体の『加湿』ボタンを3秒間押し続けると、「ピッ」と電子音が鳴って『お手入れ』ランプが消灯し、使用時間がリセットされます。

臭いや水あかが気になるときは

水トレイと加湿フィルターの臭いや水あかが気になるときは、洗剤またはクエン酸を使って浸け置きします。浸け置き後はきれいな水で十分にすすぎ洗いしてください。

◎臭いが気になるときは

ぬるま湯に台所用中性洗剤または食器・調理器具用洗剤を溶かして浸け置きします。

- 使用量：洗剤に記載された使用量に従ってください。
- 浸け置き時間：約30分～60分

◎水あかが気になるときは

ぬるま湯にクエン酸を溶かして浸け置きします。

- 使用量：約6g (大さじ2/3杯) / 1L
- 浸け置き時間：約30分～60分

注意

- 台所用中性洗剤または食器・調理器具用洗剤とクエン酸は同時に使用しないでください。
- 40℃以上のお湯では浸け置きしないでください。破損や変形の原因になります。

メモ

『お手入れ』ランプが点滅していなくても、お手入れ後に『加湿』ボタンを3秒間押し続けると、「ピッ」と電子音が鳴って使用時間がリセットされます。

表示 / 操作部



表示 / 操作部



■ 保管方法

- 水タンクと水トレイの水は必ず捨ててください。
- お手入れのあとは各部の水分をよく拭き取り、陰干しをして十分に乾かしてください。湿ったまま保管すると、カビの発生や異臭、故障の原因となります。
- リモコンからボタン電池を抜いて、ボタン電池の電極 (+/-) にセロハンテープなど絶縁性のテープを貼って保管してください。
- お買い上げ時の箱に入れるか、ポリ袋などで包み、直射日光を避け、湿気の少ない所に保管してください。

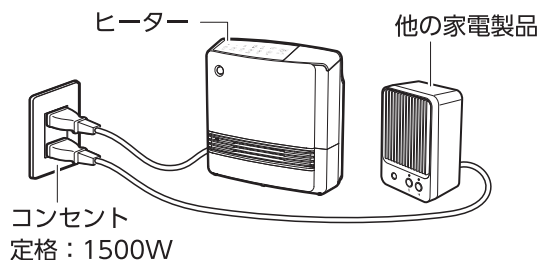
コンセントの点検

● コンセントなどの配線器具には寿命があります。

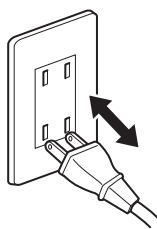
経年劣化、または誤った使いかたにより焼損や火災の原因になる場合があります。

誤った使いかたの例

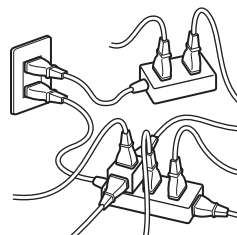
× 定格容量いっぱいを使用する



× 電源プラグを斜めに抜き差しする

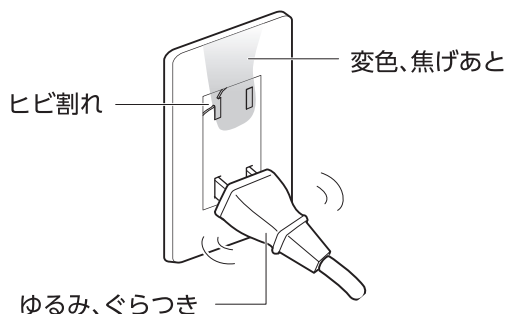


× タコ足配線する



● 下記のようなコンセントはすぐに交換をしてください。

- 電源プラグの抜き差しがゆるい。
 - 電源プラグやコンセントが熱い。
 - 表面が変形（ふくれ、ヒビ割れなど）している。
 - 表面が変色、焦げあとがある。
- そのまま使い続けると焼損、火災の原因となります。



⚠ 注意



破損または曲がっている電源プラグを無理矢理コンセントに差し込まないでください。焼損や火災、事故の原因となります。

長年ご使用の製品はよく点検を行ってください。

● このような症状はありませんか？

- 電源コードや電源プラグが異常に熱い。
- 電源コードや電源プラグが破損した。
- コードを動かすと、通電したり、しなかったりする。
- 焦げ臭いにおいがする。
- その他の異常や故障がある。



このような症状の際は、事故防止のため電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、必ず販売店またはスリーアップカスタマーサポートまで点検をご依頼ください。

故障かな?と思ったら

修理を依頼される前に、下記項目の確認をお願いします。

症状	考えられる原因	対処方法
電源が入らない	<ul style="list-style-type: none"> 電源プラグが外れている。 水トレイが正確に取り付けられていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 電源プラグをコンセントに接続してください。 水トレイが正確に取り付けられていないと電源が入りません。水トレイの取付状態を確認してください。
運転しない	<ul style="list-style-type: none"> 本体またはリモコンの『電源』ボタンを押していない。 周囲温度または周囲湿度が設定値を超えている。 安定した水平な場所に置かれていない。(転倒時自動オフスイッチが動いている) 内部温度が異常に上がり、安全装置が働いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 本体またはリモコンの『電源』ボタンを押して運転を開始してください。 『暖房』ランプまたは『加湿』ランプが点滅している場合は、運転モードまたは設定値を変更してください。 安定した平らな床面でお使いください。 本体が過熱状態になり、安全装置が働いています。しばらく待って、本体が冷めてから再度運転をしてください。
運転が停止した	<ul style="list-style-type: none"> 水トレイの水がなくなった。 オフタイマーが作動して停止した。 自動オフタイマーが作動して停止した。 	<ul style="list-style-type: none"> 水がなくなると『給水』ランプが点滅し、警告音が鳴ります。水タンクに給水してください。 引き続きご使用になる場合は、『電源』ボタンを押して運転を開始してください。 暖房運転と暖房+加湿/連続モードの運転時は、最後の操作から10時間後に自動停止します。(人感センサー設定中を除く。)
異臭がする	<ul style="list-style-type: none"> 初めて運転をしたため。 水タンク、水トレイ、加湿フィルターなどが汚れている。 	<ul style="list-style-type: none"> 初めてご使用になる時は、においや、まれに少量の煙が発生することがありますが、異常ではありません。ご使用にとまない次第になります。 『お手入れと保管方法』に従って、定期的にお手入れをしてください。
湿度が上がらない	<ul style="list-style-type: none"> 適用床面積を超えた部屋で使用している。 部屋の窓やドアが開いている。 加湿フィルターが汚れている。 	<ul style="list-style-type: none"> 適用床面積内でご使用ください。 窓やドアを閉めてご使用ください。 『お手入れと保管方法』に従って、定期的にお手入れをしてください。
加湿運転時に吹出口から出る風が冷たい	<ul style="list-style-type: none"> 加湿フィルターで水が気化するときに熱が奪われるため。 	<ul style="list-style-type: none"> 異常や故障ではありません。
湯気やミストが見えない	<ul style="list-style-type: none"> 水を含んだ加湿フィルターに風を当てて湿った空気を出す方式のため、スチーム式や超音波式のように湯気やミストは見えない。 	<ul style="list-style-type: none"> 異常や故障ではありません。
リモコンで動作しない	<ul style="list-style-type: none"> ボタン電池が消耗している。 ボタン電池の向き(+/-)が間違っている。 本体の受信部にリモコン送信部を向けていない。または本体の受信部とリモコン送信部の間に障害物がある。 本体とリモコンとの距離が離れている。 本体のリモコン受信部またはリモコンの送信部が汚れている。 	<ul style="list-style-type: none"> 新しいボタン電池に交換してください。 ボタン電池を正しい向きに入れ直してください。 障害物を取り除き、リモコン送信部を本体の受信部に向けてください。また、誤作動などが発生する場合は、本体の設置場所を変更してください。 操作距離は直線約3mです。操作位置または本体の設置場所を変更してください。 本体の受信部とリモコンの送信部のお手入れをしてください。
人感センサーが感知しない	<ul style="list-style-type: none"> 人感センサーモードに設定されていない。 人感センサーが汚れている。 人感センサーに直射日光が当たる場所や、カーテンなど風で揺れるものの近くに設置している。 人感センサーの感知範囲を超えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 『人感センサー』ボタンを押して人感センサーモードに切り替えてください。 人感センサーのお手入れをしてください。(定期的にお手入れをしてください。) 設置環境について、P.19「人感センサーモード(自動運転)」をご確認ください。 人感センサー感知範囲内でお使いください。(上下60°、左右60°、感知距離2m以内)
運転を停止してもファンが回転する	<ul style="list-style-type: none"> 暖房運転を停止した直後である。 	<ul style="list-style-type: none"> 暖房運転を停止したあとは、ヒーターの内部冷却のため約20秒間送風運転を行います。

※ 上記の点検を行っても異常がある場合は、スリーアップカスタマーサポートまでご連絡ください。

※ 当社ホームページにも「よくあるご質問」を掲載しておりますのでご覧ください。